

備後

ヒヨウモンモドキ保護の会輝く

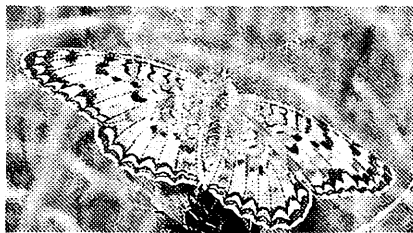
30活動保全山里地



保護を迫るヒヨウモンモドキの会のメンバー（大和町内で）

里地里山の保全維持に尽力している三十団体を顕彰する「里地里山保全活動コンテスト30」（読売新聞社主催、環境省共催）に、絶滅の危機にひんしているヒヨウモンモドキの保護活動を世羅、久井町などで行っている「ヒヨウモンモドキ保護の会」が選ばれた。中元実会長（右）（府中市上下町矢野）は「喜びと驚きでいっぱい。会員みんなの努力のたまもので、喜びを分かち合いたい」と笑顔を見せた。

作り環境や調査生育 久井や世羅で



ヒヨウモンモドキ

6年前に絶滅危機で結成

東部の世羅、賀茂台地にヒヨウモンモドキが生息していないとも言われる。約三十年前までは本州全域で生息が確認されていたが、乱開発などの環境破壊や収集家らの乱獲で、環境省のレッドリストで絶滅危惧一類に指定される希少種に。現在、日本では県中

「当初はよそ者扱いで、び交う原風景をいつか取り戻したい」と新谷さん。全なかつた」と中元さん。し会員が同じ夢を抱きながかし、次第に三人の熱意がら、連日の作業にあたって地権者らの心を動かし、多

「か弱い小さな生き物たちを人間の営みで絶滅させてはいけない」。一九九八年、中元実会長と事務局長が「みんな不満も言わず、務める新谷隆之さん(68)（甲山町別迫）、世羅台地でチョウウ研究をしていた大学院生の三人で会を結成。三人はやぶや湿地を巡ってヒヨウモンモドキの生育状況を調べ歩いたほか、生息地の地権者に保護活動への理解を求めた。

くの人が土地を提供。今では管理する保護地区は八か所、約四百で、会員は世羅、大和、久井町などの住民約三十人に広がった。

主な活動は、ヒヨウモンモドキが住みやすい湿地環境を守るための下草刈りや水路管理、チョウウが蜜を吸うキセルアザミの植栽など。手間のかかる重労働だが、「みんな不満も言わず、